

開催日時	令和2年8月25日 火曜日 午後3時00分から午後5時00分まで
場所	大阪府西大阪治水事務所 1階 AB会議室 (Web会議)

(大阪市 中村氏)

**発言内容**

○住之江区の中村です。以前、前回のときも発言させていただいたんですが、この8月の22日ですか。新聞で、大阪で1週間以上浸水しますよ、と。室戸台風クラスのものが来たと。いわゆるこんな記事が載ってますが、こういうものに対して、私は非常に心外なのは、この1週間というのは何でなんだと聞きましたら、ポンプが止まるから1週間なんだと。こんなばかげた防災計画だとか浸水想定計画、まさに水防法が、その最大水位でもって、越流するところが、どの程度になるかということ、それで防災対策終わりですとになってますが、この委員会では、冒頭の先生方のほうから気象変動等において、より確からしい水位がどの程度なのかと、それに対応した水門、高潮水門を作っていこうというようなお話だったんで、少し防災上、工学的な見地の議論が進むのかというふうに期待してたんですが、前回にも言いましたが、そのこの高潮水門だけの高さを幾らにすればいいというんじゃなくて、これを連動してる防潮堤の高さを幾らにするんだという議論がなければですね、これは防災上何の意味もならないものです。配布された資料を見ててですね、非常に分かりにくいし、不満なのがその水門をできるだけ手戻りのないということから、いろいろその都度その都度対応したらいいということですが、防潮堤については、そう簡単にかさ上げできるわけじゃないわけです。今も、河川課さんのほうにL1津波に対して、水門を閉めなくて、多少勾配がなだらかにすれば、何も問題起きないんじゃないかと言いましたら、何センチか知りませんが、浸水するところがあるんで、これは都市の問題があって、そこのかさ上げが非常に困難で、そういう防災対策は作れませんというようなお話になってます。

この防潮堤に対して、1メートルも2メートルも、幾らかは知りませんよ。1メートルなら1メートル、50センチなら50センチ、かさ上げしようとするのは、非常に大きな社会問題なわけです。したがって、この私が言いたいのは、水門のいろんなテクニカルな対応の仕方というのは、それはいろいろ検討されたらいいと思いますが、大阪の高潮、これからも気象条件の変動を見て、台風の大型化に対応した、50年100年の単位ですね、この潮位に対応できる防潮施設を整備しますよと。あるいは整備すべきだというような答申を書くのが、この国の問題における、将来的に予測される気候変動に対して、本当の防潮対策を見ようと思ったら、前回も言いましたけども、いつまでも水門方式、ほいでもっと言わせてもらおうとね、ここの今言いました、22日の防水のときに、前回この委員会だったと思うんですけど、大型台風がきたときに、洪水はどうですかということを言ったら、その次の委員会のときに、大型台風については、風台風なんで、洪水は起きなくていいですねという、事務局のある、しかるべき人が、おっしゃってましたよ。

ところがこの資料を作った原点を見たらね、洪水も一緒に起きますよと。だからこれだけの氾濫するんです。そういうしつちやかめつちやかな議論がなされてるわけです。だからこの水門をね、その場当たりの後の対応とか何とかで、そりゃ考えとくべきだとは

思いますよ。けれども、もっとはっきり防災対策として、向こう100年あるいは50年を見た、50年、やっぱり100年でしょうね。100年を見た大阪の気象変動に伴う、高潮及び水位変動に対しては、防潮施設はOP何ぼまで整備すべきだということをね、はっきり言うのが、冒頭説明あった、国の気象変動を踏まえた海洋保全のあり方の提言を受けた、真摯な答えではないでしょうか。ぜひその答えが出るまではね、今資料、我々もらっていないけども、先ほど申されたようなアングルでもってごまかすことなく、本当にその大阪府民を守るためのですね、防潮対策をぜひ立案してください。